

第3回生物多様性市民参画部会要点録

【開催日時】平成28年3月28日(月)午後6時30分～8時30分

【開催場所】日野市役所505会議室

【参加者】市民・・・5名

事業者・・・多摩動物公園、樹木・環境ネットワーク協会

学生（農工大）4名

職員・・・高荒、石黒、藤田（環境保全課）高木、新井（緑と清流課）山本（都市計画課）清水（学校課）加藤（生涯学習課）小島（健康課）
岡澤（区画整理課）

事務局・・・中島部長、久保田課長、成澤課長補佐、酒井、枝久保、高見（環境保全課）

コンサル・増澤部長、彦坂、宮本（㈱地域環境計画）

【検討内容】

- ① 第二回生物多様性市民参画部会要点録及びアンケート結果について
（事務局）
- ② ワールドカフェについて
（事務局）
- ③ 来年度について
（事務局）
- ④ ワークショップ（ワールドカフェ）

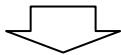
A.緑



この二つのバランス 大きいパッチ（緑地）…多様性にとっては…小さい緑地。自然に親しめる 造成がうまくない場所・地形（平山等）はそのうち人がいなくなる

★ 目指すみどり

丘陵部で崖線部の緑が多い。宅地化が難しい 公園にもって特徴を持たせる
何にもない原っぱ 倉沢・三沢等（拠点）の（ハード面の）大きな緑を守る
市街地での緑

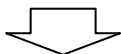


★ 緑を育てる仕組みづくり

希少種が目立たない植物の見分け方の周知 日野産の植物を庭で育ててもらう
今、緑が残っている理由や緑の大切さを知るきっかけづくり
多摩丘陵にある多様な植物（希少なものも）今の状態で残す

★ 緑を守る仕組みづくり

市民緑バンク（仮）…ソフト面の拠点 寄付したい人と活用したい人のマッチング
余っている土地の寄付を受け入れて活用する組織



★ 具体的手段

ボランティアのやる気につながる評価制度 ボランティアへの後ろだて
民の力を上手く利用する 市民主体で管理する花だん。それをもって宣伝

手入れコンテスト評価方法に多様性の視点を

安全や見た目重視の手入れではなくて、生きものが住めるような手入れ

現地で特徴を知ることが出来る看板や QR コード

樹木の部分にタグに QR コードをつける

★ 農地減少の要因

農家の高齢化の問題 農地減少。相続の問題 農地が細かくなりすぎている

生産緑地を賃借できない 都市農業。終身でやらなければならない



★ 対策

給食として利用。農産物 日野がモデルケースになれば（それには少なすぎるかも）

市民参画として体験農園（市民を指導する） 市民農園の推奨

市民農園を NPO に任せる方向 国の政策（税法）を変えていかないと難しい



B.生きもの



★PR

みつけれなくてもアプリで見られる

アプリなども良いがまずは現地で

公園・緑地にここにいる、ここを通る生きもの名前を表示

足あとを残す

なぜ守るのか駆除するのから教える

知ってもらおう背景なぜここにいるのか？

生活の変化からくる生きものの変化

ガーデニング売場からのPR

生きものがなぜそこにいるのかストーリーをもって知らせてあげる

時間的な変化を共に伝える

市民に対する自然のPR

水辺に生きもの看板つくる

案内版にアプリ標記

★駆除

害獣の認知のために取り組む

コイ・アカボシ・ゴマダラ・ザリガニ

食べる⇒利用する

アライグマ・ハクビシン

駆除によって生物相は変化するのか？データをとって裏付ける

「普及」特定外来生きもの

捕まえるしくみ

★すみか

用水・池・原っぱ・湧水・田んぼ・里山・雑木林・崖線・河原

★保全

ホタルの観察 カワセミ観察エリア 日野の昆虫 カブトムシ 緑と清流
日野の魚 身近な生きものがいられる体感できる場所。すみか⇒原っぱなど
多摩川の自然の住処 榿・菊

★管理

雑木林の保全 植樹 皆で考えようすべきか議論する 生息環境作り
生きものにも配慮した水辺管理 ミドリシジミ環境作り ハンノキを増やす



C.水



★ 生態系

魚・鳥・植物を含めた生きものが住みやすい繁殖できる場所

川や用水の生きものが繁殖できる場所の確保（流れのゆるい場所の創出）

生きものがすみやすいような用水路づくり

日野用水は多様な生きものがみられる 水鳥の観察

★ 親しむ・体験する

体験授業

カテゴリ：探す・とる・食べる ソフト的なアプローチ

…やっではいけないことなども同時に教える

体験することで知ることができることが多い（湧水・小川など）

小学生が授業で水生生物と親しむ時間をさらに増やしてもらう

川の恵みを知ってもらう機会を作る（川魚のこと、伝統漁法のこと、料理のこと、文化のことなど）

見て体験できる 川辺のゴミ拾い 魚とりとか水空間で遊べる

体験 ・遊ぶ→楽しい ・食べる→おいしい

体験授業の地域差（台地では体験できない）

ガサガサができるところが増えると良い 川に行く。ガサガサをやる

観察会をやりたい

「危険なこと」「やってはいけないこと」水辺のリテラシーの育成

「危ない」から「楽しい」

★ 親水

安全な水辺

人の手がかかっている ハード的なアプローチ

水 日野市がすごい

整備された自然

・生き物を守る・水を流す・遊べる → 場所を分ける

生きものがあると水がキレイというワザとらしい用水路を作る

どこなら安全か、わかりやすく遊べる・親しむ場所の整備・周知→親しみやすく

田舎と比べると開発された自然というのも日野の特徴

用水が下に降りられるところがある（親水）

降りられるところに生きものの案内板

★ 水の利用

人の手が加わった水空間 人が利用した水 用水にきれいな水が入ってくる

川をきれいにする取組

地形が作る水辺（丘陵）湧水、水田→用水 →左記を利用した生きもの多様性が

作られてる

用水が多い 川や用水の中でも生きものによって好む環境が違う

生きものがいることを知らせる

★ 上記を踏まえた取り組み例等

ワンドをモデル地区で作る

用水整備による水環境の単純化による多様性が失われている

水辺の役割分担 テーマをもった川辺作り 裸足で遊べる空間を作る取組

守るべき自然の定義

止水域の維持 そこにすむ生物の保全につながる

用水路の中でそれぞれの役割の場所をつくる



D.ひと



★イベント

まずは知ってもらうこと。得することと、面白いことを体験するイベント。

日野産野菜を食べるイベント

ウォーキングに生物ガイドを付ける

気軽に参加しやすいイベント

広報の方法⇒興味のない人にどうつなげるか？

子どもを通じて「大人」(親)にもつなげて、口コミで広げていく

生態系の理解をすすめる場作り (命と命のつながりを再度考えてもらう場作り)

生きもの増やす施策 自然を考える命の尊重⇔自然の面白さを体験

★協働

生きものを守る日野市民全体周知

生きものとの壁を無くす (ツバメ)

ひのっちとのコラボ (昔あそび等)

地元の方と転入者との接点づくり

日野の魅力を実感してもらう⇒子育て世代

親世代の巻き込み方 市民活動団体とのコラボレーション

活動に若者・子どもを引き込む 転入者へのアプローチ

★学校支援・地域活動

給食に日野産の野菜→農業体験 子どもを通じて親を連れて来て巻き込む

小学校教育へ出前授業 小学校での動物飼育

学校を生物多様性の拠点に 学校の授業で必ず生きものにふれる授業を

先生に体験してもらう

子どもたちに生物にふれさせる 自然の中での遊ぶ場

川で遊ぶ、山で遊ぶ、小学生へ場を作る

★行政・まちづくり

まちづくりの中で花木の苗を配る 人中心ではなく生きものに配慮した環境管理

PRとかしなくても子どもが自然と触れ合えるレベルの量の緑をつくる

もっと原っぱを増やす！ススキの原っぱ

蝶や鳥がくるような植物を植えるとか特徴ある地区

★個人・家庭

生きもの豊かなお庭作り区域 簡単なところから始める

